彩日夕	 コミュニケーション英語 Ⅲ	授業時数	週 5 単位	Ĺ	3 学年
17日石	コミュニケーション英語Ⅲ 	コース	志学	コース	文
			and the first first and a		

世界では、「大きなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。」

「本されるとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。」

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	身近な話題に関する記事, レポート,資料の概要や要 点を理解し,必要な情報を 読み取り,要点を理解する ことができる。	関心のある分野の話題に ついて,英語を用いて具 体的に説明したり,意見 を述べることができる。	英語を活用し、自ら様々 なことを表現しようとす ることができる。
価	A	わかる	身近な話題に関する短めな記事,レポート,資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある 話題について簡単な語句 や文を用いて、自分の意 見やその理由を短く述べ ることができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	できる	平易な英語で書かれたご く短い英文を読み, イラ ストや写真も参考にしな がら概要を理解できる。	身近な話題などについて 基本的な表現を用いて簡 単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	C	-d	短い簡単な会話や説明文 の意味を理解することが できる。	身近で具体的な事物を表 す単語の意味を理解し, 発音できるようにする。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容			
	Lesson1 Caffeine: The World's Favorite Drug			
1	Lesson2 Blood Is Blood			
学期	Lesson3 Australia and its Creatures			
	Lesson4 The \$ 100,000 Salt and Pepper Shaker			
	Lesson5 Bilingual Effects in the Brain			
2 学	Lesson6 Communication without Words			
子 期	Lesson7 Political Correctness			
	Lesson8 Animal Math			
	Lesson9 The Story of My Life			
3 学	Lesson10 Extinction of Languages			
子 期	Lesson11 Learning a First Culture			
	Lesson12 Light Pollution			

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK English CommunicationⅢ 必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

授業時数 週 3 単位 3 学年 英語表現Ⅱ 科目名 コース 志学 コース 文

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝え る能力を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用 して,場面・目的・状況 に応じた話題について, 的確で適切な表現をする ことができる。	英語で聞いたり,読んだりしたことを活用し,情報や考えを話したり,書いたりして表現することができる。
価	A		言語の働きや役割(文法 内容等)はほぼ理解して おり,聞き手に伝えたい 情報量も豊かである。	英語で聞いたり, 読んだりしたことを活用して, 自分の考えをほぼ的確に 相手に伝えることができる。	英語学習を通して,言語の持つ役割や文化的背景を理解し,相手意識を 持ってコミュニケーションを図ることができる。
基	В	き	英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて, その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会 と関わり、またコミュニ ケーションを持つことが できる。
準	C	9 ス	英語を用いたコミュニケーション活動において 簡単な語句や表現などの 英語を使ったり,聞いた りしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが,自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや,文化的背景に気づき,コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法		法	・授業・定期考査・クリアテスト	・授業・定期考査・提出物・インタビューテスト	・授業 ・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	Z E		内	容
	PART 2	文章を約	且み立て	る	
1 学	Lesson 1	文と文を	つなぐ		
子 期	Lesson 2	パラグ	ラフ①柞	構成/列≧	挙・順序
	Lesson 3	パラグラ	フ②例示	∵追加	
	Lesson 4	パラグラ	フ③比較	₹•対照	
2 学	Lesson 5	パラグ	ラフ④原	原因・理	里由・結果
子 期	Lesson 6	要点•	要約①!	Jーディ	ソグの要約
	Lesson 7	要点•要	約②リス	ニングの	要約
	入試問題沒	寅習			
3 学 期					

何で学ぶか(教材)

- ·Vision Quest English Expression II Ace (啓林館)
- · Write to the Point (数研出版)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習,ペア学習 ICTを活用した個別学習

科目名 化学基礎演習 授業時数 週 2 単位 3 学年 コース 志学 コース 文系

目 化学基礎で修得した内容を踏まえ、物質やその変化について科学的に判断し、考察をおこなうこ標 とができることを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	田の観	見点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S		化学に関する事物・現象について, 基本的な概念や, 原理・法則を理解し, 難易度の高い演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ,実験・観察データをもとに科学的 に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を 持ち、主体的に調べたり 考察したりする。
価	A	カュ	化学に関する事物・現象について, 基本的な概念や, 原理・法則を理解し, 標準的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること もとに,考察することが できる。	グループ活動等において 自らの役割を見出し主体 的に活動する。
基	В	_	化学に関する事物・現象について, 基本的な概念や, 原理・法則を理解し, 基礎的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること を指摘できる。	授業中に分からないこと を積極的に質問したり, 教え合ったりできる。
準	С		化学に関する事物・現象について, 基本的な概念や, 原理・法則を理解しようとし, 演習問題に対して答えを導き出そうとする。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し, 積極的に発言やグループ 活動を行う。
評	価方	法	定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	羽台	内	容
1 学 期	第2編	物質の		ビ学結合 車した化学	
2 学期	付録 実践演		ミ験の基 値	楚	
3 学 期	総合問題	題演習			

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎』 授業プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義,演習,実験 ペアワーク・グループワーク
 科目名
 現代文B
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 文

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	伝統的な言語文化及び言葉 の特徴や決まり,漢字など について理解し,知識を身 につけ活用することができ る。	文章を的確に読み取り,目 的に応じた文章を書くこと ができ,場に応じて効果的 に話したり,聞き取ったり することで自分の考えを深 めている。	国語で伝え合う力を進んで 高めるとともに, 言語文化 に対する関心を深め, 国語 を尊重してその向上を図ろ うとする。
価	А	わかる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり,漢字などについて理解し,知識を身につけている。	文章を的確に読み取り、目 的に応じた文章を書くこと ができ、場に応じて効果的 に話したり、聞き取ったり することができる。	国語で伝え合う力を進んで 高めるとともに, 言語文化 に対する関心を深め, 国語 を尊重している。
基	В	き	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり,漢字などについて理解し,知識を身につける努力が見える。	文章を読み、目的に応じた 文章を書くことができ、場 に応じて話したり、聞き取 とろうとする努力が見え る。	国語で伝え合う力を高める とともに、言語文化に対す る関心を持ち、国語を尊重 しようとする努力が見え る。
準	С		伝統的な言語文化及び言 葉の特徴や決まり, 漢字 などについて学習意欲を 持つ。	文章を読み、目的に応じた 文章を書くことができ、場 に応じて話したり、聞き取 とろうとする意欲を持つ。	国語で伝え合う力を高める とともに,言語文化に対す る関心を持ち,国語を尊重 しようとする意欲を持つ。
評	評価方法		定期考査 課題確認テスト 漢字テスト 授業の取り組み姿勢	定期考査 課題確認テスト ノートの整理 授業の取り組み姿勢	授業に臨む姿勢,意欲 ペア学習,グループ学習

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	『文学の未来』(評論)『言語と記号』(評論)『檸檬』(小説)『スペインタイルの家』(小説)
2 学 期	『クレールという女 言葉を生きる』(随想) 『社会の壊れる時』(評論)『他者の声 実在 の声』(評論) 共通テスト対策
3 学 期	共通テスト

何で学ぶか(教材)

精選現代文B(東京書籍) 精選現代文B 学習課題ノート(東京書籍) 常用国語便覧(浜島書店) 各種補助教材(プリント等)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習, グループ学習 プリント教材

科目名	古典R	授業時数	週 3 単	i位	3 学年
件 日 石 	口 艸 D	コース	志学	コース	文
会 本 が ま	っ年は。の知識ナッパムフ しょり	出海にあた	- イナ曲に知り	7. 白コナ.白 し、	ケル 事ぶ

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	古典を読むことを通して,我が国の文化の特質 や外国の文化との関係に ついて理解を深めること ができる。	古典の作品に表れている ものの見方や考え方を踏 まえ,自分の考えを広げ たり深めたりすることが できる。	古典作品を, 自らの考え 方や生活に結び付けなが ら読もうとすることがで きる。
価	А	わかる	古典を通して, 先人のも のの見方や感じ方, 考え 方を理解することができ る。	作品の成立した背景や他 作品などとの関係を踏ま えて古典を読み、内容の 解釈や作品の価値の考察 ができる。	古典作品を通して書き手 の思いや当時の文化を理 解しようとする姿勢をも つことができる。
基	В	じょ	時間の経過による言葉の 変化や, 古典が現代の言 葉の成り立ちにもたらし た影響を理解できる。	必要に応じて書き手の考 えや目的, 意図をとらえ て内容を解釈することが できる。	古典作品に進んで慣れ親 しもうとする姿勢をもつ ことができる。
準	С	する	古典を読むために必要な 文語のきまりや訓読のき まりを理解できる。	文章の種類を踏まえて, 古典特有の表現に注意し て内容を的確に捉えるこ とができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学習內容
1 学 期	・古文 随筆(枕草子),物語(源氏物語・大鏡),日記(蜻蛉 日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・漢文 史伝(三国志・史記),小説(人面桃花・杜子春 伝),漢詩
2 学 期	・古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・共通テスト対策
3 学 期	・共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

教科書

『精選古典B改訂版』(三省堂)

• 副教材

『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版)

- 『新明説漢文』(尚文出版)
- ・『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

- ・講義
- ペア学習
- グループ学習
- ・問題演習

 科目名
 公民
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 文

目標 社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い 視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な 形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S	7	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を十分に理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	図表やグラフをもとに現代 の諸課題について多面的・ 多角的に考察でき、公正な 判断のもと、自らの意見を まとめることができる。	現代の諸課題についての 理解を深めるための討 議・調査等を行うことが できる。
価	А	わかる	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	図表やグラフをもとに、現 代の諸課題について多面 的・多角的に考察でき、自 らの意見をまとめることが できる。	現代の諸課題について、 その問題点や克服のため の課題等に気づくことが できる。
基	В	できる	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	図表やグラフをもとに、現 代の諸課題について多面 的・多角的に考察できる	現代の諸課題について、 教員に対して、またはグ ループ内で質問すること ができる。
準	С		基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題をある程度 理解するとともに、諸資料 からの情報を関連付けて考 えることができる。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、 グループ内等で発言する ことができる。
評	評価方法		定期考査 確認テスト等	定期考査 確認テスト等	授業態度 提出物 グループ討議等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	羽首	内	容	
1 学 期		の仕組みと動 の仕組みと動			
2 学 期	国際社会の演習	の現状と課題			
3 学 期	演習				

何で学ぶか(教材)

新版最新現代社会資料集 2021 (第一学習社) 現代社会要点サブノート (東京書籍)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、グループ討議

 科目名
 国語表現演習
 授業時数
 週2単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 文

| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けたうえで、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S		自分の思いや考えを伝え るために多彩な言語表現 を用いることができる。	互いの主張や論拠を吟味 して,話合いの進行や展 開を助けながら,話合い の仕方や結論の仕方を工 夫できる。	他者の意見を傾聴たうえで、自分の意見を深めたり広げたりしようとする 姿をもつことができる。
価	A	わかる	実用的な文章などの種類 や特徴,構成や展開の仕 方について理解を深める ことができる。	論点を明確にして相手の 話を聞き、自分の考えを 広げたり深めたりするこ とができる。	話し合い活動やスピーチ を通して他者の意見を傾 聴しようとする姿勢をも つことができる。
基	В	できる	省略や反復など表現の技 法について理解を深め, 使い分けることができ る。	自分の思いや考えが伝わるよう, 具体例を効果的に配置するなど, 話の構成や展開を工夫することができる。	自分の意見を相手に伝え ようと工夫する姿勢をも つことができる。
準	С		話し言葉と書き言葉の特 徴や役割,目的や場面に 応じた適切な表現を使い 分けることができる。	実社会の問題や自分に関わる事柄の情報を収集し,整理して伝え合うことができる。	自分の意見を相手に伝え るために必要な方法を身 に付けようとすることが できる。
評	評価方法		授業・提出物	授業・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	・小論文入門 小論文と作文との違いを明確にする ・小論文基礎 理由や根拠をもとに自分の意見を述べる
2 学 期	・小論文展開 課題文を要約する 課題文を踏まえて自分の意見を述べる ・小論文応用 自分の意見をスピーチしたり討論したりする
3 学 期	・復習

何で学ぶか(教材)

- 新聞やインターネットの記事
- 過去問題

どのように学ぶか(授業方法など)

- ・講義
- ・グループ学習
- ・問題演習

 科目名
 数学 I A演習
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 文

目標 基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の定着と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し, 事象を数学化することが できる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決 の過程を振り返り考察 し、自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A	カュ	複合問題の構成を的確に 捉え,適切な公式を用い て解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	課題に対して適切な公式 を選択し、解くことがで きる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解 説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	С		基本的な式を計算した り,公式に代入して計算 したりすることができ る。	問題文の意味を理解し, 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析
2 学期	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 I A総合問題
3 学 期	共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学I・A+II・B 上級演習PLAN120』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材 科目名 数学ⅡB演習 授業時数 週 2 単位 3 学年 コース 志学 コース 文

基礎から実践的な問題を解くことを通して数学における基本的な知識や技能の習得を図り、事象を数学的に捉えて処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し, 事象を数学化することが できる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決 の過程を振り返り考察 し、自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A	カュ	複合問題の構成を的確に 捉え,適切な公式を用い て解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В		課題に対して適切な公式 を選択し、解くことがで きる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人 に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С		基本的な式を計算した り,公式に代入して計算 したりすることができ る。	問題文の意味を理解し, 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学 期	微分法と積分法 ベクトル 数列
3 学 期	実践演習

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学I・A+II・B 上級演習PLAN120』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材
 科目名
 世界史B
 授業時数
 週 4 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 文

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
価	А	カュ	諸問題(政治・外交・経済等)の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解 説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	С	- d	基本的な歴史的事象や概 念を理解し、解答するこ とができる。	問題文の意味を理解し, 用語や概念を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
	第8章	近世:	ヨーロッ	パ世界の刑	
1 学	第9章	近代:	ヨーロッ	パ世界の原	
子 期	第10章	近代:	ヨーロッ	パ世界の原	艾立
	第11章	欧米に	こおける	近代国民国	国家の発展
	第12章	アジ	ア諸地域の	の動揺	
	第13章	帝国	主義とア	ジアの民族	 英運動
2 学	第14章	二つの	の世界大学	戦	
子 期	第15章	冷戦。	と第三世	界の独立	
	第16章	現在の	の世界		
	問題演習	IZ E			
3 学					
期					

何で学ぶか(教材)

山川出版社『改訂版 詳説 世界史B』 啓隆社『新世界史要点ノート 応用編』 啓隆社『世界史重要語句Check List』

どのように学ぶか(授業方法など)

		<i>-</i> , , –	, ,,	(3)<) (
講	義				
課	題				
討	議				

科目名 生物基礎演習 授業時数 週 2 単位 3 学年 コース 志学 コース 文系

目 生物基礎で学習する内容の概要を把握するとともに、問題演習を繰り返すことで基礎的な知識を標 活用し、発展的な問題を解く力を身に付ける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S	使える	基本的な概念・原理・法 則を十分に理解し、数値 の取り扱いも確実にでき る。	図表やグラフ,実験・観察データをもとに科学的 に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を 持ち、主体的に調べたり 考察したりする。
価	A	カュ	基本的な概念・原理・法 則を概ね理解し、数値の 取り扱いもできる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること もとに,考察することが できる。	グループ活動等において 自らの役割を見出し主体 的に活動する。
基	В	できる	基本的な概念・知識が概 ね身についている。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること を指摘できる。	授業中に分からないこと を積極的に質問したり, 教え合ったりできる。
準	С	する	基本的な概念・知識があ る程度身についている。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し, 積極的に発言やグループ 活動を行う。
評	評価方法		定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	羽白	内	容
1 学 期	分野別問題	演習		
2 学 期	分野別問題 総合問題演			
3 学 期	総合問題演	· 百		

何で学ぶか(教材)

副教材 (数研出版 大学入学共通テスト チェック&演習生物基礎)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義,問題演習 ペアワーク・グループワーク
 科目名
 体育
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	実践の中で技術や戦術,正 しい知識を用いて,楽しく 安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で 状況を適切に判断し,プレー をしたり指示を出すことが できる。	問題解決の過程を振り返り、 考察し,自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A		戦術や技術を適切な場面で 生かし,集団・チームの仲間 と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し,より大きな力を発揮するために,集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い,共に考察することができる。
基	В	き	基礎練習を正しくおこない,競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技 術を理解し,またその競技の ルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向 かおうとすることができ る。
準	С	a	基本的な身体機能を理解し, 基礎体力を身に付けてい る。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備が できている。(教材準備・服 装・身のまわりの整理整頓 など)
評価方法		法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	体つくり運! 体力テスト 陸上競技	動		
2 学 期	バレーボー, ソフトボー, サッカー バスケット;	ル		
3 学 期	バドミント: ダンス	ン		

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名 地学基礎演習 授業時数 週 2 単位 3 学年 コース 志学 コース

目 地学基礎で修得した内容を踏まえ、地球や地球を取り巻く環境に関する事象について科学的に判標 断し、考察することができることを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S	使える	基本的な概念・原理・法 則を十分に理解し,数値 の取り扱いも確実にでき る。	図表やグラフ,実験・観察データをもとに科学的 に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を 持ち、主体的に調べたり 考察したりする。
価	А	カュ	基本的な概念・原理・法 則を概ね理解し、数値の 取り扱いもできる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること もとに,考察することが できる。	グループ活動等において 自らの役割を見出し主体 的に活動する。
基	В	できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること を指摘できる。	授業中に分からないこと を積極的に質問したり, 教え合ったりできる。
準	С	する	基本的な概念・知識があ る程度身についている。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し, 積極的に発言やグループ 活動を行う。
評	価方	法	定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	į	学	羽白	内	容
1 学 期	分野別間	問題演習			
2 学 期	総合問題	直演習			
3 学 期	総合問題	1頁演習			

何で学ぶか(教材)

=	授業に	プリン	/ ト		

どのように学ぶか(授業方法など)

講義,	
ペアワ	リーク・ グループワーク

 科目名
 日本史B
 授業時数
 週 4 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 文

程 表が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	原始から現代に至る歴史の展開を理解し、現代社会においての自己の在り方について理解することができる。	政治,経済,社会,文 化,国際環境など歴史を 構成する要素について幅 広い考察力を培うことが できる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し,歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
価	A	カュ	我が国の文化や伝統がど のような特色をもち形成 されてきたかについての 認識を深めることができ る。	我が国の歴史の展開を諸 資料に基づき地理的条件 や世界の歴史と関連付け て総合的に考察すること ができる。	日本史の基本的な事柄に 関する諸資料を様々な方 法で収集を行うことがで きる。
基	В	できる	基本的知識身に付け, 歴 史が複合的な要因で成り 立っていることを理解す ることができる。	歴史的思考力を培い,国際社会において主体的に生きる日本人の自覚と資質を身につけることができる。	わからないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С		基本的知識身に付け,歴 史が複合的な要因で成り 立っていることを理解す ることができる。	日本史の基本的な流れを 理解し、現代社会とのつ ながりなどを多面的に考 察し、公正に判断するこ とができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	価方	法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	٢	学	羽首	内	容
1 学 期	近代国家二つの世		とアジア		
2 学 期	占領下の 高度成長 激動する	の時代	日本		
3 学 期	大学入記	代問題演	習		

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	コミュニケーション英語 Ⅲ -	授業時数	週 5 単位	3 学年
件日石	コミューケーション央品皿	コース	志学	ュース 理
11 > > >	s and the state of]	3	3 3 3 1-b-1-m-3 ba

世間 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考 えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	身近な話題に関する記事, レポート,資料の概要や要 点を理解し,必要な情報を 読み取り,要点を理解する ことができる。	関心のある分野の話題に ついて,英語を用いて具 体的に説明したり,意見 を述べることができる。	英語を活用し、自ら様々 なことを表現しようとす ることができる。
価	A	わかる	身近な話題に関する短めな記事,レポート,資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある 話題について簡単な語句 や文を用いて、自分の意 見やその理由を短く述べ ることができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	できる	平易な英語で書かれたご く短い英文を読み, イラ ストや写真も参考にしな がら概要を理解できる。	身近な話題などについて 基本的な表現を用いて簡 単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	C	· d	短い簡単な会話や説明文 の意味を理解することが できる。	身近で具体的な事物を表 す単語の意味を理解し, 発音できるようにする。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
	Lesson1 Caffeine: The World's Favorite Drug
1	Lesson2 Blood Is Blood
学期	Lesson3 Australia and its Creatures
	Lesson4 The \$ 100,000 Salt and Pepper Shaker
	Lesson5 Bilingual Effects in the Brain
2 学	Lesson6 Communication without Words
子 期	Lesson7 Political Correctness
	Lesson8 Animal Math
	Lesson9 The Story of My Life
3 学	Lesson10 Extinction of Languages
子 期	Lesson11 Learning a First Culture
	Lesson12 Light Pollution

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK English CommunicationIII 必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

授業時数 週 2 単位 3 学年 英語表現Ⅱ 科目名 志学 コース コース 理

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝え る能力を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		平価の観点 知識・技能		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用 して,場面・目的・状況 に応じた話題について, 的確で適切な表現をする ことができる。	英語で聞いたり, 読んだりしたことを活用し, 情報や考えを話したり, 書いたりして表現することができる。		
価	A	かる	言語の働きや役割(文法 内容等)はほぼ理解して おり,聞き手に伝えたい 情報量も豊かである。	英語で聞いたり, 読んだりしたことを活用して,自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して,言語の持つ役割や文化的背景を理解し,相手意識を 持ってコミュニケーションを図ることができる。		
基	В	き	英語の文化的背景を理解 し、実際のコミュニケー ションにおいて必要な知 識や技能を身に付けてい る。	英語を使う目的等に応じて, その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会 と関わり, またコミュニ ケーションを持つことが できる。		
準	C		英語を用いたコミュニ ケーション活動において 簡単な語句や表現などの 英語を使ったり,聞いた りしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さ や,文化的背景に気づ き,コミュニケーション を図ろうとする。		
評価方法		法	・授業・定期考査・クリアテスト	・授業・定期考査・提出物・インタビューテスト	・授業 ・提出物		

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	羽首	内	容
	PART 2	文章を組み	立てる	
1 学	Lesson 1	文と文をつれ	なぐ	
子期	Lesson 2	パラグラフ	フ①構成/列	挙・順序
	Lesson 3	パラグラフ②	例示•追加	
	Lesson 4	パラグラフ③	比較・対照	
2 学	Lesson 5	パラグラフ	7④原因・耳	里由・結果
期	Lesson 6	要点・要約	り①リーディ	ィングの要約
	Lesson 7	要点•要約(②リスニング の	の要約
	入試問題沒	寅習		
3 学				
期				

何で学ぶか(教材)

- ·Vision Quest English Expression II Ace (啓林館)
- · Write to the Point (数研出版)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習,ペア学習 ICTを活用した個別学習

科目名	ル学	授業時数	週 5 単位	3 学年
	1L -1-	コース	志学	コース

旧 化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に 探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的 な自然観を育成する。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え えっ	化学に関する事物・現象について, 基本的な概念や, 原理・法則を理解し, 応用問題に対して答えを導き出すことができる。実験・実習の操作が確実にできる。	化学的な事物・現象に問題を見出し、科学的な考察をもとに導き出した考えを的確に表現している。実験・実習のレポート作製ができる。	課題・ノート・ワークを期限を守って確実に提出する。授業においても,積極的な授業参加がみられ,主体的に活動している。
価	A	かっ	化学に関する事物・現象について,基本的な概念や,原理・法則を理解し,それを用いて答えを導き出すことができる。 実験・実習の操作をおおむね身につけている。	化学的な事象や法則について科学的に考察し,論理的に説明することができる。	課題・ノート・ワークの提 出期限を守り、授業におい ても、発言・質問をするな ど、積極的な授業参加がみ られる。
基	В	できっ	化学に関する事物・現象について, 基本的な概念や, 原理・法則を理解し, 知識をほぼ身につけている。 実験・実習に取り組むことができる。	適切な用語・化学式を使い、事象や法則を説明することができる。	課題・ノート・ワークの 提出ができ,授業に参加 しようとする態度がみら れる。
準	С	す	化学に関する事物・現象について, 基本的な概念や, 原理・法則を理解し, 知識をある程度身につけている。	教科書・問題等の意味を 理解し、用語や化学式を 適切に用いることができ る。	授業を受ける準備ができ ており、参加しようとす る態度がみられる。
評価方法		法	授業・定期考査・小テス ト・実験レポート	授業・定期考査・小テス ト・提出物・実験レポー ト	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容	
1 学 期	無機物質有機化合物				
2 学 期	高分子化合共通テスト				
3 学 期	共通テスト 国公立2次・	対策演習 ・私大対策演	習		

何で学ぶか(教材)

実教出版『化学 新訂版』 第一学習社『八訂版 スクエア最新図説化学』 数研出版『六訂版 リードα化学基礎+化学』 演習プリント 共通テスト対策問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 実験・観察

 科目名
 現代文B
 授業時数
 週 2 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 理

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	伝統的な言語文化及び言葉 の特徴や決まり,漢字など について理解し,知識を身 につけ活用することができ る。	文章を的確に読み取り,目 的に応じた文章を書くこと ができ,場に応じて効果的 に話したり,聞き取ったり することで自分の考えを深 めている。	国語で伝え合う力を進んで 高めるとともに, 言語文化 に対する関心を深め, 国語 を尊重してその向上を図ろ うとする。
価	А	わかる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり,漢字などについて理解し,知識を身につけている。	文章を的確に読み取り、目 的に応じた文章を書くこと ができ、場に応じて効果的 に話したり、聞き取ったり することができる。	国語で伝え合う力を進んで 高めるとともに, 言語文化 に対する関心を深め, 国語 を尊重している。
基	В	き	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり,漢字などについて理解し,知識を身につける努力が見える。	文章を読み、目的に応じた 文章を書くことができ、場 に応じて話したり、聞き取 とろうとする努力が見え る。	国語で伝え合う力を高める とともに、言語文化に対す る関心を持ち、国語を尊重 しようとする努力が見え る。
準	С		伝統的な言語文化及び言 葉の特徴や決まり, 漢字 などについて学習意欲を 持つ。	文章を読み、目的に応じた 文章を書くことができ、場 に応じて話したり、聞き取 とろうとする意欲を持つ。	国語で伝え合う力を高める とともに,言語文化に対す る関心を持ち,国語を尊重 しようとする意欲を持つ。
評	評価方法		定期考査 課題確認テスト 漢字テスト 授業の取り組み姿勢	定期考査 課題確認テスト ノートの整理 授業の取り組み姿勢	授業に臨む姿勢,意欲 ペア学習,グループ学習

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	『文学の未来』(評論)『言語と記号』(評論)『檸檬』(小説)『スペインタイルの家』(小説)
2 学 期	『クレールという女 言葉を生きる』(随想) 『社会の壊れる時』(評論)『他者の声 実在 の声』(評論) 共通テスト対策
3 学 期	共通テスト

何で学ぶか(教材)

精選現代文B (東京書籍) 精選現代文B 学習課題ノート (東京書籍) 常用国語便覧 (浜島書店) 各種補助教材 (プリント等)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習,グループ学習 プリント教材

利日夕	士曲R	授業時数	週 3 単位	Ĺ	3 学年
件日名	白 灰 D	コース	志学	コース	理

目 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	古典を読むことを通して、我が国の文化の特質 や外国の文化との関係に ついて理解を深めること ができる。	古典の作品に表れている ものの見方や考え方を踏 まえ,自分の考えを広げ たり深めたりすることが できる。	古典作品を, 自らの考え 方や生活に結び付けなが ら読もうとすることがで きる。
価	A	わかる	古典を通して, 先人のも のの見方や感じ方, 考え 方を理解することができ る。	作品の成立した背景や他 作品などとの関係を踏ま えて古典を読み、内容の 解釈や作品の価値の考察 ができる。	古典作品を通して書き手 の思いや当時の文化を理 解しようとする姿勢をも つことができる。
基	В	できる	時間の経過による言葉の 変化や、古典が現代の言 葉の成り立ちにもたらし た影響を理解できる。	必要に応じて書き手の考 えや目的, 意図をとらえ て内容を解釈することが できる。	古典作品に進んで慣れ親 しもうとする姿勢をもつ ことができる。
準	С	する	古典を読むために必要な 文語のきまりや訓読のき まりを理解できる。	文章の種類を踏まえて, 古典特有の表現に注意し て内容を的確に捉えるこ とができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学習內容
1 学 期	・古文 随筆(枕草子),物語(源氏物語・大鏡),日記(蜻蛉 日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・漢文 史伝(三国志・史記),小説(人面桃花・杜子春 伝),漢詩
2 学 期	・古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集) ・漢文 思想と寓話(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・共通テスト対策
3 学 期	・共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

教科書

『精選古典B改訂版』(三省堂)

• 副教材

『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版)

- 『新明説漢文』(尚文出版)
- ・『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

- ペア学習
- グループ学習
- ・問題演習

 科目名
 数学 I A演習
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 理

目標 基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の定着と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し, 事象を数学化することが できる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決 の過程を振り返り考察 し、自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A	カュ	複合問題の構成を的確に 捉え,適切な公式を用い て解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	課題に対して適切な公式 を選択し、解くことがで きる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解 説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	С		基本的な式を計算した り,公式に代入して計算 したりすることができ る。	問題文の意味を理解し, 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析
2 学 期	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 I A総合問題
3 学 期	共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学I・A+II・B 上級演習PLAN120』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材 科目名 数学 II B演習 授業時数 週 2 単位 3 学年 コース 志学 コース 理

基礎から実践的な問題を解くことを通して数学における基本的な知識や技能の習得を図り、事象を数学的に捉えて処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し, 事象を数学化することが できる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決 の過程を振り返り考察 し、自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A	カュ	複合問題の構成を的確に 捉え,適切な公式を用い て解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В		課題に対して適切な公式 を選択し、解くことがで きる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人 に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С		基本的な式を計算した り,公式に代入して計算 したりすることができ る。	問題文の意味を理解し, 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

, 14	で 子のが(十百円1分)
	学習內容
1 学 期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学期	微分法と積分法 ベクトル 数列
3 学 期	実践演習

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学I・A+II・B 上級演習PLAN120』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材 科目名 数学Ⅲ 授業時数 週 5 単位 3 学年 コース 志学 コース 理

目 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育 成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け、別解の考察、条件の変更、異なる表現の工夫など、多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り,評価・改善しようとするとともに,よさを味わうことができる。
価	A		基本的な概念や原理・法 則を体系的に理解でき る。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや, よりよい解決を求めて, 粘り強く考え続けることができる。
基	В	できる	問題に応じて適切な公式 を使うことができる。	事象を論理的に考察し, 適切な用語・記号を使い,解決の流れを表現で きる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
準	С		簡単な計算や、目的に応 じて適切に式変形でき る。	問題文の意味を理解し, 適切な用語や記号を用い て考察することができ る。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		・授業・定期考査・クリアテスト	授業定期考査提出物	授業提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	羽首	内	容	
1 学 期	第3章 第4章 第5章	関数 極限 微分法				
2 学 期	第6章 第7章	微分法 積分法		I用		
3 学 期	実践演	習				

何で学ぶか(教材)

- ・改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)
- ・チャート式 解法と演習 数学Ⅲ(数研出版)
- ・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材 問題解決的な手法を導入し,概念 を創り出す場面を経験させたい。
 科目名
 数学演習
 授業時数
 週 2 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 理

目標 基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し, 事象を数学化することが できる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決 の過程を振り返り考察 し、自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A	カュ	複合問題の構成を的確に 捉え,適切な公式を用い て解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	課題に対して適切な公式 を選択し、解くことがで きる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解 説を書くことができる。	できないところを自ら人 に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С		基本的な式を計算した り,公式に代入して計算 したりすることができ る。	問題文の意味を理解し, 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	価方	法	授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質
2 学期	式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数・対数関数 微分法・積分法 ベクトル 数列 IA総合問題
3 学 期	ⅢB総合問題 共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学I・A+II・B 上級演習PLAN120』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材
 科目名
 世界史B
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 理

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
価	А	カュ	諸問題(政治・外交・経済等)の原因・構造を的確に捉え,適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い,人が読んで分かる解 説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	С	する	基本的な歴史的事象や概 念を理解し、解答するこ とができる。	問題文の意味を理解し, 用語や概念を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
	第8章	近世	ヨーロッ	パ世界の刑	
1 学	第9章	近代	ヨーロッ	パ世界の属	 展開
子 期	第10章	近代	ヨーロッ	パ世界の点	艾立
	第11章	欧米に	こおける	近代国民国	国家の発展
	第12章	アジフ	ア諸地域の	の動揺	
	第13章	帝国	主義とア	ジアの民族	英運動
2 学	第14章	二つの	の世界大学	戦	
子 期	第15章	冷戦	上第三世。	界の独立	
	第16章	現在の	り世界		
	問題演習	IZI H			
3 学					
期					

何で学ぶか(教材)

山川出版社『改訂版 詳説 世界史B』 啓隆社『新世界史要点ノート 応用編』 啓隆社『世界史重要語句Check List』

どのように学ぶか(授業方法など)

2000/12/00	()大水の田はこ
講義	
課題	
討議	

私日夕	/ - / // /	授業時数	週 4 単位		3 学年
	土物	コース	志学	コース	

目 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うこと などを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。_____

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S		生物の基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。 実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ,実験・観察 データをもとに科学的に正 しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に 表現できる。	グループ活動および実験 や実習等においてより深 く探究する姿勢を持ち, 調べたり考察したりす る。
価	Α	カュ	生物の基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。 実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること もとに,考察することが できる。	グループ活動および実験 や実習等において自らの 役割を見出し主体的に活 動する。
基	В	しきぃ	生物の基本的な概念・知識 が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作 ができる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること を指摘できる。	授業中に分からないこと を積極的に質問したり, 教え合ったりできる。
準	С	d	生物の基本的な概念・知 識がある程度身について いる。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し, 積極的に発言やグループ 活動を行う。
評価方法		法	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
1 学 期	第4編	生態と	環境		
2 学 期	第5編	生物の	進化と系統	Ŕ	
3 学 期					

何で学ぶか(教材)

教科書 (数研 改訂版生物 (310)) ワーク (数研 リードα生物・生物基礎) 資料 (数研 フォトサイエンス生物図録)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義,演習 実験,実習 グループ活動
 科目名
 体育
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	実践の中で技術や戦術,正 しい知識を用いて,楽しく 安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で 状況を適切に判断し, プレー をしたり指示を出すことが できる。	問題解決の過程を振り返り、 考察し,自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A		戦術や技術を適切な場面で 生かし,集団・チームの仲間 と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い,共に考察することができる。
基	В	き	基礎練習を正しくおこない,競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し,またその競技の ルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向 かおうとすることができ る。
準	С	a	基本的な身体機能を理解し, 基礎体力を身に付けてい る。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備が できている。(教材準備・服 装・身のまわりの整理整頓 など)
評	評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	体つくり運! 体力テスト 陸上競技	動		
2 学 期	バレーボー, ソフトボー, サッカー バスケット;	ル		
3 学 期	バドミント: ダンス	ン		

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

 科目名
 地理B
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 理

目 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	地理Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
価	A	カュ	諸問題(民族・領土問題, 国際関係など)の原因・構 造を的確に捉え,適切な用 語・概念を用いて説明する ことができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	С	-d	基本的な歴史的事象や概 念を理解し、解答するこ とができる。	問題文の意味を理解し, 用語や概念を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評平	評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学習內容
1 学 期	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察1章 現代世界の地域区分2章 現代世界の諸地域(東アジア〜西アジア・中央アジア)
2 学期	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 (北アフリカとサハラ以南のアフリカ 〜オセアニア) 共通テスト演習
3 学 期	共通テスト演習

何で学ぶか(教材)

帝国書院 新詳地理B 帝国書院「新詳地理資料COMPLETE2020」 帝国書院「新詳高等地図」

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

作業(白地図を利用した作業など) 討議
 科目名
 日本史B
 授業時数
 週 3 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース
 理

程 表が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	原始から現代に至る歴史の展開を理解し、現代社会においての自己の在り方について理解することができる。	政治,経済,社会,文 化,国際環境など歴史を 構成する要素について幅 広い考察力を培うことが できる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し,歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
価	A	カュ	我が国の文化や伝統がど のような特色をもち形成 されてきたかについての 認識を深めることができ る。	我が国の歴史の展開を諸 資料に基づき地理的条件 や世界の歴史と関連付け て総合的に考察すること ができる。	日本史の基本的な事柄に 関する諸資料を様々な方 法で収集を行うことがで きる。
基	В	できる	基本的知識身に付け, 歴 史が複合的な要因で成り 立っていることを理解す ることができる。	歴史的思考力を培い,国際社会において主体的に生きる日本人の自覚と資質を身につけることができる。	わからないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С		基本的知識身に付け, 歴 史が複合的な要因で成り 立っていることを理解す ることができる。	日本史の基本的な流れを 理解し、現代社会とのつ ながりなどを多面的に考 察し、公正に判断するこ とができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

		学	羽首	内	容
1 学 期		家の成立 世界大戦	とアジア		
2 学 期		の日本 長の時代 る世界と	日本		
3 学 期	大学入	試問題演	百		

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

 科目名
 物理
 授業時数
 週 4 単位
 3 学年

 コース
 志学
 コース

り 物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に 探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科 学的な自然観を育成する。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	物理学の基本的な概念や 原理・法則を深く理解 し、応用的な問題におい て式を立て、解を導くこ とができる。	図表やグラフ、解の意味 を読み取って深く考察す ることができるともに、 グラフ等を用いて適切に 表現できる。	グループワークや実験等 において深く探究しよう とする姿勢を持ち、調べ たり考察したりできる。
価	A	カュ	物理学の基本的な概念や 原理・法則を理解し、基 本的な問題において式を 立て、解を導くことがで きる。	図表やグラフを正確に読み取って考察することができるとともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークや実験等 において自らの役割を見 出し主体的に活動でき る。
基	В	できる	物理学の基本的な概念や 原理・法則がある程度理 解でき、公式を扱うこと ができる。	図表やグラフを正確に読み取り、考察することが できる。	グループワークや実験等 において、分からないこ とを積極的に質問した り、教え合ったりでき る。
準	С	する	物理学の基本的な概念や 原理・法則がある程度わ かる。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	グループワークや実験等 において、積極的に発言 するともに課題レポート に取り組むことができ る。
評	評価方法		定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	第4編 電気と磁気 第2章 電流
学期	第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波
2 学 期	第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核 共通テスト対策演習
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

教科書(『改訂版物理』数研出版) 問題集(『リードα物理・物理基礎』 Google Classroom ロイロノート

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 グループワーク 実験や探究活動